「育む さっぽろっ子 教育の大綱」策定に当たっての思い

平成 27 年 10 月、未来を担う子どもたちを健やかに育みたいという思いで、札幌市の教育に関する総合的な施策の目標や方針となる「育む　さっぽろっ子　教育の大綱」を策定しました。

その後、新型コロナウイルス感染症の拡大や国際情勢の不安定化、少子高齢化・人口減少、グローバル化の進展といった社会情勢のなか、教育を取り巻く環境も大きく変化しております。

国においては、2040 年以降の社会を見据えた教育政策の在り方を示す「第 4 期教育振興基本計画」が閣議決定され、本市においても、市政施行 100 周年を迎え、持続可能なまちづくりを着実に進めていくため、次の 100 年の礎となる今後 10 年間のまちづくりの指針として「第２次札幌市まちづくり戦略ビジョン」を策定したところです。

さらに、GX を通じた新たな産業の発展にも取り組んでいき、今後の成長が期待される分野で活躍できる札幌の将来を担う人材を育み、札幌の街の持続的な成長につなげていきます。

こうした状況から、このたび教育の大綱を見直します。

大綱には、「子どもたちが自他のよさや可能性を認め合うことを通して、『新たな価値を創造する力』を高め、世界の舞台で活躍する『さっぽろっ子』を育てます。」という「教育の方針」を掲げました。

共生社会の実現に向け、互いの個性や多様性を認め合い、他者と協働しながら、人生・社会をより豊かにするための「新たな価値を創造する力」を身に付けてほしいという思いを込めています。

この「教育の方針」に沿ってどのような取組を推進していくのかを「取組の柱」として表現しました。

１つ目の柱は、様々な子どもの困りや課題に真摯に向き合い、安心感、充実感が得られる環境を整え、社会総がかりで子どもを見守り、支えることが重要だと考え、「子どもたちの思いや願いに寄り添いながら、子どもたちが安心して学びに向かうことのできる環境を整えます。」としました。

２つ目の柱は、子どもたちが自分自身の可能性を発揮し、持てる力を大きく伸ばしていくには、日頃の学習はもちろんのこと、スポーツ、芸術などあらゆる分野や地域社会における体験活動を通して成長の機会や場を増やすことが大切だと考え、「多様な学びや体験の機会を充実させ、子どもたちの可能性を広げます。」としました。

３つ目の柱は、札幌で育った子どもたちには、多様な価値観や文化を理解、尊重する幅広い視野や創造性を身に付けることで、さまざまな分野で活躍してほしいと考え、「ふるさと札幌を誇りに持ちながら、持続可能な社会の発展に向けて行動することができる子どもたちを育みます。」としました。

私が目指すまちづくりの方向性は、教育委員会が策定した「第２期札幌市教育振興基本計画」にある「札幌市の教育が目指す人間像『自立した札幌人』」と合致していることから、具体的な教育施策は同計画に委ねています。

まちづくりの原点は、人づくりです。

この大綱の下、教育委員会とより一層連携しながら、教育行政を推進していきます。

札幌市長　秋元克広